

～洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 策定の経緯～

洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会

国外の動向		国内の動向	
1997年	京都で行われた第3回気候変動枠組条約締約国会議（COP3）で、1990年と比較して温室効果ガスの排出量を削減する目標が定められた。 「京都議定書」と呼ばれる。		
		1998年	地球温暖化対策の推進に関する法律が制定される。
2015年	京都議定書の後を継いだのが、COP21で結ばれた「パリ協定」		
		2016年	地球温暖化対策計画が閣議決定され、温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比で26%削減することが掲げられた。
		2020年	菅総理が日本政府として2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする政策目標を表明。
2021年	COP26が開催され、その中で、2015年のパリ協定採決後、初めてとなる首脳級会合が行われた。	2021年	岸田総理が「2050年カーボンニュートラルの実現と、2030年に温室効果ガスを2013年度比で46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向け挑戦を続けていく」と、改めて国際的な場で宣言。

2016年度以降、日本国内において急速に地球温暖化対策が進められているところです。

洞爺湖町においても、2050年までに二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量「実質ゼロ」を目指していくため、令和5年1月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、国と同様、2030年までに温室効果ガスを2013年度比で46%の削減、2050年までに「ゼロカーボン」を実現すべく、令和5年度、6年度の2か年で再エネ導入目標及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定し、必要な対策を講じていくことといたしました。

～洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 策定の考え方～

洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会

なぜ今、世界的規模で脱炭素を目指しているのか。

世界的に脱炭素を目指しているのは、次の2つが主な理由です。

- ・地球温暖化による気候変動を食い止めるため
- ・化石燃料の資源がなくなるため

脱炭素とは何？

脱炭素とは、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を「実質ゼロ」にすることです。この脱炭素を実現した社会を「脱炭素社会」といい、日本政府は2050年までに脱炭素社会を目指すことを宣言しました。

「温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」とは、「温室効果ガスを全く排出しないようにする」という意味ではありません。経済活動や日常生活の中で温室効果ガスを全く排出しないのは、現時点で不可能です。

脱炭素の取り組みでは、二酸化炭素などの「温室効果ガスの排出量」－「植物などによって吸収される量」＝「実質ゼロ」を目指します。

そのため、脱炭素を実現するためには温室効果ガスの排出量を減らすだけでなく、植林や森林管理で温室効果ガスの吸収量を増やすための取り組みが必要です。

【地球温暖化による気候変動のため】

脱炭素の目的のひとつは、地球温暖化の原因と考えられている温室効果ガス排出量の削減です。これまで世界は、化石燃料を燃やして発展してきました。化石燃料を燃やすと二酸化炭素が発生します。

その結果、世の中が便利になっていく一方で、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスによる地球温暖化が進んできました。地球温暖化が進むと異常気象や自然災害の頻度が増える可能性があるため、温室効果ガスの排出量を減らして地球温暖化を食い止めなければなりません。

このまま気温が上昇を続けた場合、大きく次の8つのリスクが示されています。

- ・ 高潮や沿岸部の洪水、海面上昇による健康障害や生計崩壊のリスク
- ・ 大都市部への内水氾濫による人々の健康障害や生計崩壊のリスク
- ・ 極端な気象現象によるインフラ機能停止
- ・ 熱波による死亡や疾病
- ・ 気温上昇や干ばつによる食料不足や食料安全保障の問題
- ・ 水資源不足と農業生産減少
- ・ 陸域や淡水の生態系、生物多様性がもたらす、様々なサービスの損失
- ・ 海域の生態系、生物多様性への影響

【化石燃料の資源がなくなるため】

世界は化石燃料を燃やして得られるエネルギーによって発展してきました。

しかし、このままのスピードで化石燃料を消費していると、近い将来には資源がなくなると予測されています。

化石燃料の資源の種類は、大きく分けて次の4つです。

・石油 ・天然ガス ・ウラン ・石炭

この4つの化石燃料は、それぞれの寿命が以下のように予測されています。

石油：50年 天然ガス：50年 ウラン：115年 石炭：132年 （※2019年時点）

このように、化石燃料は埋蔵量に限りがあるので、使い続ければいつかはなくなってしまいます。そのため、化石燃料に代わるエネルギー資源を確保することが、より重要な課題となってきました。

脱炭素の取り組みのひとつは、温室効果ガスを排出する化石燃料の使用を減らすことです。結果として化石燃料の節約にもつながるため、エネルギー資源の枯渇を防ぐ意味でも脱炭素は重要な取り組みとされています。

地球温暖化の原因は何？

地球温暖化とは、人間の活動が活発になるにつれて、大気中に含まれる二酸化炭素などの「温室効果ガス※」が大気中に放出され、地球全体の平均気温が上昇している現象のこと。

地球の周りの大気は温室効果ガスで覆われています。そのおかげで地球は太陽からの熱を失うことなく、平均気温が約14℃から15℃に保たれています。

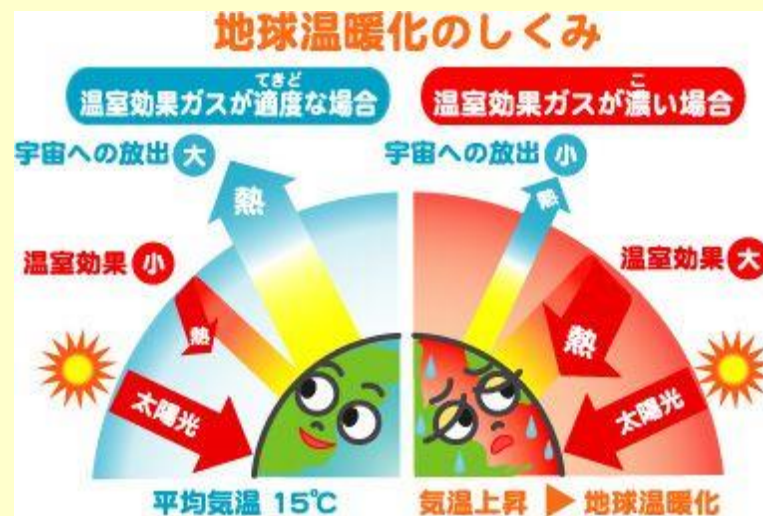
温室効果ガスがなくなったら、地球の気温はマイナス18℃から19℃になるといわれています。

地球にとって大切な温室効果ガスですが、産業革命が始まって以降、人間の活動により化石燃料を大量に使ってきたことで温室効果ガスの濃度が高まり、熱の吸収が増えています。

「これが地球温暖化の大きな原因です。」

※温室効果ガスとは、大気中に含まれる二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスの総称です。

温室効果ガスは、太陽から放出される熱を地球に閉じ込めて、地表を温める働きがあるため、生物が住みやすい温度に保つ役割を果たしています。



本日、これまで説明した当町における計画策定の経緯、なぜ、世界的規模で脱炭素に取り組まなければならないのかという現状を踏まえながら、当町が目指す脱炭素社会を実現するため、温室効果ガス排出量削減の方策や化石燃料に代わるエネルギー資源は何か、誰が・どのような対策をしたらよいのかを町民、事業者、行政が一体となって検討・協議を行い、脱炭素化に向けた取組みを行うことで、結果として「洞爺湖町のまちづくり」に寄与できるものと考えています。